報告

第 29 回国際天文学連合(IAU)総会 ＠ホノルル 報告

矢治健太郎（国立天文台）

1. はじめに

2015 年の 8 月 3 日から 14 日、アメリカ合衆国ハワイ州ホノルル市で、第 29 回国際天文学連合総会（IAU 総会）[1]が行われた。私は、前半の 3 日から 7 日まで出席してきた。IAU 総会は、3 年ごとに行われるビッグイベントで、世界中からたくさんの天文学者が集まってくる。メインは 6 つのシンポジウム。そして 22 のフォーカス･ミーティング(FM)、9 つのディビジョン・ミーティングが行われた。他にも全体向けの講演会やさまざまな会議、一般向けのイベントも多数企画されていた。私はその中の、8 月 6-7 日に行われた天文アウトリーチ関係のセッションに出席。前半は筆者の専門分野である太陽関係のセッションはあまりなかったが、初日の開会式から出席して、いろいろなセッションや講演を物色。開会式では IAU 会長の海部宣男氏のあいさつを聞くことができた。IAU 総会は、最近、天文教育普及関係のセッションが充実しており、今回も以下のセッションがあった。

FM12：天文遺産（8/11-13）
FM19：ビッグデータ時代の天文普及（8/6-7）
FM20：発展途上国での天文教育（8/13-14）
FM21：光害と電波周波数保護（8/11-13）

この他にも、天文教育・アウトリーチ・天文学史の全体セッションであるディビジョン C ミーティング(8/7、10)というのが行われた。

2. FM19：ビッグデータ時代の天文普及

このセッションは、8 月 6 日と 7 日の前半に行われた。FM19 は「ビッグデータ時代の天文普及」と勝手に和訳したが、英語の元々のセッション名は Communicating Astronomy with the Public in the Big Data Era で、CAP 関係のセッションである。今回は 5 人のスピーカーが以下の話題提供を行い、それを元にグループディスカッションを行い、最後にグループごとに発表するというスタイル。そのため、個別の発表は全てポスター発表に回された。私もその 1 人だったりする。概ね 60 人ぐらい出席していた。以下はそのキートークのタイトル。なかなか和訳しづらかったので、元の英語も載せる。

1 天文コミュニケーションにおける研究者の仕事を評価するには？
How to recognize the work of researchers in astronomy communication?
2 研究者はコミュニケーション・イニシアティブの何を改善したいのか？
What would researchers like to improve in communication initiatives?
3 研究者をコミュニケーションの上流側に引き込むには？
How to engage researchers with “upstream communication”？
4 コミュニケーターは研究者の仕事をどのようにサポートできるか？
How can communicators support the work of the researchers?
5 世論と研究資金の関係とは何か？
What is the relationship between public opinion and research funding?

いろいろ興味深い話題が豊富だった。SKA という電波望遠鏡の将来計画では、膨大な科

学データが公開される予定で、どのようにアウトリーチを進めるか、興味をひいた。ハッブル計画が市民の声で延長したこと、シチズンサイエンスやクラウドファンディングの話題も面白かった。グループディスカッションは、個人的に英語についていけなくて、なかなかハードだったが、どのグループも活発に議論していた模様である。

3. GHOU ミーティング

8 月 4 日、5 日には、IAU 総会と並行して、ハワイ大学を会場に Global Hands on Universe（GHOU）ミーティングが行われた。参加者はほとんど IAU の FM19 と重複していた。とはいえ、出席者は 20 人ぐらい？ちょっと少ない気もする。しかも、IAU 総会の会場から車で 20 分とはいえ、行き来しながら参加するのはハードだった。顔見知りの参加者も午前に GHOU に出席しては、午後は IAU 総会に戻るなどしていた。ただ、学校教育関係の実践報告はこちらの方が充実していた。スカイプでの発表もあった。私は、Solar Observation Data Education in Classroom というタイトルで、自分がこれまで行ってきた太陽観測データを使った教育普及活動や授業実践について紹介した。

次回は、2016 年がノルウェーで、2017 年はアメリカのケンタッキーで行われることが決まった。私は出席しなかったが、8 日、9 日は学校教員対象のガリレオ・ティーチャー・トレーニング・プログラムが行われた。

4. ディビジョン C　ミーティング

今回の IAU 総会から、IAU の組織が再編されて、50 以上あった委員会が A から F までの大きく 6 つのディビジョンに変更された。天文教育普及関係はディビジョン C に含まれており、その下に、天文教育、アウトリーチ、天文学史、天文遺産の各委員会がある。

図 1　フォーカス・ミーティング 19 の様子

ディビジョン C には 13 人の運営委員がおり、日本からは国立天文台の関口和寛氏、林左絵子氏の二人が選ばれている[2]。

8 月 7 日と 10 日は、ディビジョン C ミーティングが行われた。これは、特定のテーマに焦点をあてた FM に入らない発表がされた。今回の再編を受けて、ディビジョン C の活動内容の紹介から、各国の様々な天文教育普及の実践内容が発表された。申込み段階で、このミーティングの意味をよく理解していなかったので、私のポスター発表内容はここで発表すればよかった、と後悔。このセッションには、パルサー発見で有名なあのジョスリン・ベル氏も出席していてびっくりした。

5. その他にもいろいろ

そのほか、気がついた話題をかいつまんで紹介する。残念ながら、IAU 総会の後半の日程には参加せずに帰国。後半には太陽フレアのシンポジウムや、天文教育関連のセッション（FM20）もあったので、自分としては非常に残念だった。それでも、前半だけでもいろいろ見どころがあった。例えば、展示ブース。各国の天文台や研究機関が出展しており、記念グッズも豊富で、思わずおみやげがわりにいろいろ物色。IAU のアウトリーチオフィスのブースでは、国立天文台のチャン・シーリュン氏、リナ・カナス氏、臼田-佐藤功美子氏

図 2　カンファレンスキット
上の石みたいなのは、なんと携帯用のバッテリー

らがいて、IAU のアウトリーチ活動を PR していた。ポスター会場も一緒なので、休憩時間ともなるとすごく賑やかになる。私は、今回知り合いになった参加者とこの機会に記念写真を撮らせてもらった。その他では…

初日の 3 日の晩：会場近くの浜辺（ワイキキではない）で、観望会が行われた。私もどなたかのドブソニアンで M57 を見せてもらった。5 日：午前、ホノルル市内のエクスカーションにも参加して、ダイヤモンドヘッドやパンチボウル記念墓地、カメハメハ大王像などを巡った。夜はバンケットに参加。6 日夕方：愛媛大学の谷口義明氏の招待講演。これがめちゃくちゃ面白かった。詳しく書いていると紙面がなくなるので省くが(残念！！)、銀河形成のシミュレーションを、アルフィーのメリーアンを BGM で流したりとか。いろいろ欲張って、いろんな講演を聞いたので、夜はかなりばて気味となってしまったが。

あと、IAU 総会といえば、毎日発行されるニュースレターが楽しみ。このニュースレターには「カイ’アレレイアカ（Kai’aleleiaka）」という名前がついていた。「天の川」を意味するそうだ。ただ、今回は紙媒体のものは廃止されてしまい、完全電子化された。PC や電子端末で読んでくれということ。紙媒体のものも味があったし、人によってはおみやげにしていたので、ちょっと残念。でも、その日のセッションの見どころが紹介されているので、毎日読むのを楽しみにしていた。特に、今回、天文教育普及関係の話題が毎回ほぼ必ずこれでもかと登場していたのも興味深い。まだ、IAU 総会のサイトからダウンロードできるので、興味のある方は読むことができる。

さらに、国立天文台ニュースの 2015 年 11 月号でも充実した報告記事が掲載されているので、そちらもぜひ参照されたし[3]。

6. 最後に

次回は 2018 年、オーストリアのウィーンで開催される。その次の 2021 年は韓国の釜山での開催が決まった。アジアでの開催は 2012 年の中国北京以来となる。ディビジョン C の天文教育普及関係のセッションではアジアのからの参加が増えることが期待できる。日本からも参加する人がぜひ増えてほしい。

文　献

[1] http://astronomy2015.org
[2]http://www.iau.org/science/scientific_bodies/divisions/C/
[3] 国立天文台ニュース 2015 年 11 月 No.268 http://www.nao.ac.jp/contents/naoj-news/data/nao_news_0268.pdf

矢治健太郎
発表ポスターの前にて